

愛犬コロの闘病と顛末

私は、7月3日に愛犬コロをT獣医師の大誤診と治療によって12才で亡くしました。コロは家族と寝食を共に生活していたので悲しみと愛惜しむ気持ちでいっぱいです。思い出はとうてい尽きませんが、私達が経験した事柄を何かの参考にして頂ければと思い手記を書きました。

コロは生後20日位で私の家に来ました。小さい頃から偏食もなく野菜や果物でも何でも食べとても元気な賢い犬でした。12才でも全部歯も揃っていて毛つやも良く家の階段も何回も登り降りしていました。コロは予防注射とフィラリア予防の薬を貰う為、毎年家の近くのT獣医院に通院していました。私はT先生を神様のように信頼していました。このT獣医院に通院した事によって後に不幸な結果になるとは夢にも思いませんでした。以下にT獣医院への通院経過を記します。

5月12日 コロは時々下痢をしていたので、T獣医院に行き下痢止めの薬を貰いました。

29日 私は庭掃除をして、浄化槽のふたにカビキラーをまきました。

30日 最近になって時々吐く事があるので、T獣医院に行き診察を受け、胃炎と診断され抗生物質を8時間おきに飲ませました。

6月7日 T獣医院に行くのですが、症状はだんだんと悪くなっているように思います。私はコロがカビキラーを舐めたのかもしれないとT獣医師に告げるとT獣医師「製造中止になった毒消しの薬のストロークがあるのでこれを10日間飲ませなさい」と云われました。コロはこの薬を飲みましたが、尾を下げて目をじっと見つめるようになって舌の色も白く貧血のようでした。T獣医師はコロが通院するたびに、オウムの実験の話をしていて、とてもオウムに興味をもっていたようです。午後から解毒の薬とフィラリアの薬と一緒にもらいました。

9日 今日T獣医院に行き、「コロが水をたくさん飲みます」と云うと、「糖尿かなあ」と云って蛋白の検査をすると云われました。又オウムの薬とか実験の話がされました。

10日 朝一番に尿を持って行くと「蛋白が普通の量より多く出ている」と私に見せて説明をしてくれました。結果は糖尿ではなく腎臓が少し悪かったのです。

19日 解毒剤を再度10日分もらいました。前回の分を飲んでかなり衰弱していました。この薬は瓶に入っていてシートがありません。この様なケースは滅多にないそうです。薬の処方せんはとてもいい加減で、T獣医師の指示で私が書き直したこともあります。

21日 今まで検査は何もなく、体温さえも測って貰えませんでした。不安を感じたので私から血液検査を頼みました。朝夕の解毒の薬も飲みながら日に日に衰弱していくのが分かります。

22日 T獣医師は検査の結果「再生不良貧血の症状で助かる道はない。コロはお盆位に死ぬでしょう。原因はバベシア病が考えられる。しかし血液検査の結果ではわからない。ただ肝臓は以上なし」(バベシア病は草に付くダニですが、この辺にはいないそうです) バベシア(ガセナック黄色)の注射は筋肉注射で1日おきに3回お尻に打ちます。これは非常に痛くて飛び上がる程だそうです。

23日 T獣医師「この薬(ガナセック)も発売禁止されたもので自分のところにしかない」と云われました。コロの為には射ったほうが良いのか射たないほうが良いのか、先生に聞くとT獣医師「もちろんこの注射を射った方が良いです」と云われました。今日からガナセックの注射を3回射つことにしました。今日は右のお尻に打ちました。コロはとても我慢強い犬でじっと耐えて声も出さず頑張りました。しかしコロはバベシア特有の血尿などなく体重も今までと同じ11kgでした。しかし病名を宣告されてから貧血に対する輸血や増血剤は一度も治療してもらえませんでした。そしてコロには特徴的な症状がありました。医院の床のコンクリートをしきりに舐めているのです。するとT獣医師「これは異嗜という状態です。家の中に錆びたクギがあれば削って錆びをコロにやって下さい」私は、不信に思いつながら先生の言われる通りにしました。そしてその日の夕食は突然食べなくなりました。夕方主人が会社から戻ると毎日元気よく玄関まで迎えに行くのに、この日はまるでカニが這うように時間をかけて迎えに行きました。可哀相で見てもらえませんでした。

26日 2回目のガナセックを射ちました。コロは突然、自分自身で立って歩けなくなりました。昼食・夕食は全く食べなくなり、散歩に行くときはダッコしてゆきました。

27日 再度、血液検査をしました。

28日 3回目のガナセックを射ちました。この日、私は貧血になった原因を先生に尋ねるとT獣医師は支離滅裂な事を言っていました。T

獣医師「コロが貧血になったのは、カビキラーを舐めたからです」と。先生は、カビキラーで貧血になったと言いつつバベシアの注射を射っていました。先生はまるで当てずっぽうのように病名を次から次へと変えて、コロの本当の病名が分からないようでした。27日の血液検査の結果が出ました。T獣医師「やはり再生不良貧血の症状で骨髄から血液が作られていない。助かる見込みなし、肝臓は以前は良かったが23日から急速に悪くなった。数値は86位で、コロは1人では生活できなくなるでしょう」と言われました。コロは身体をダラリとして手足の神経がなくなったようになってしまいました。

私は、この日初めて何か気が付いたようです。コロはどんどん衰弱していったのです。今まで検査は尿検査ぐらいで体温さえも測ってもらえなかったのです。3回目のガナセックを射った日の夕方PM6:00頃他のB医院に行きました。そして、こちらで精密検査をして頂きました。

結果、B先生から意外な言葉がありました。

B獣医師「コロは再生不良貧血ではありません。骨髄からきちんと血液が作られています。そしてバベシア病ではありません。貧血がひどいので、改善してから他の検査をします。今日から3日間貧血治療の注射を射ちます」と、この日の夜からコロはみるみる回復して歯茎の色、舌の色がとても良くなり、赤みを帯びてきました。食事をする姿はまるでオットセイの様な格好ではありましたが、一生懸命食べるようになりました。コロには好き嫌いはなかったのに尻尾を振りながら色々食べられるようになりました。

29日 B獣医院通院2日目、B先生はコロの腰をおさえて「貧血がどんどん良くなって来たよ、コロ頑張るんだよ」と言ってくれました。この日の夕食はやはりオットセイの様な姿でしたが、よく食べてくれました。しかし何か元気はなかったようです。

30日 B獣医院通院3日目、貧血は回復に向かっているのに心臓の心音が気になるようでした。自分ではもう歩けないので私がいつもダッコをしていました。待合室ではコロが一番重体のようで他の犬の飼い主の方がコロに「頑張ってるよ」と言ってくれました。

コロは元気がないのに期待に答えるかのように私にダッコされたまま他の犬ちゃん達を見つめながら尻尾を一生懸命振っていました。この日B先生は「3日間注射を射って良く反応してくれたので少し休んで7月4日に来て下さい」と言われました。

この日の夜から、コロの貧血は良くなったのに心臓の脈拍が早くとても苦しうなってきました。

7月2日 コロは便秘になったことがないのにガナセックを射ち続けたせいでしょか、便秘が続きました。この日の夜、私はダッコした腕からコロを降ろして便を出させようと、何度もコロに呼びかけましたが、コロの様子に変化があり前足がくねって震え出しました。コロは震えながらも一生懸命便を出しました。私はコロの様子に異常を感じ、すぐ寝かせました。

3日 AM8:30 コロが苦しみ出しました。何か発作が起きたようでした。30分位息が詰まったようでとても苦しみ、力尽きて、息を引き取りました。一生懸命痛みと苦しさを乗り越えて頑張って来たのにかわいそうでたまりません。

その後色々な事が分かりました。他の獣医さんは、バベシア病でガナセックを射つときは「死ぬかも知れない」と宣告してから射つそうです。コロは注射を射ってから5日間も、頑張って生きて来ましたがガナセックを射て1時間で若い犬でも死ぬことがあるそうです。そして副作用として肝臓、脳内出血、発作、てんかん、神経障害が出るそうです。T獣医師は副作用の事は何も言ってくれませんでした。今でも私がバベシアの事を言うと、T獣医師「副作用はありません。薬品会社がこの薬を禁止した理由を言ってくれないので僕は何も知らない」と言っただけで責任逃れしている様でした。事実、現在はガナセックは強い副作用があるので使用せず毎日射つおだやかな注射をするみたいです。コロはバベシアでもなかったのに、強い注射を射った事で拒絶反応が出てどんなに苦しかったでしょう。T獣医師「バベシアの注射を射ったのでバベシアが消えた」と言いました。しかし28日の午前中にバベシアの注射を射て夕方B獣医院に行くとバベシアではないと言われた事について、私は家畜研究所や専門大学へも問い合わせました。明らかにT獣医師は、誤診をしていたようです。せめて、ガナセックを射た後でも副作用の事を言ってほしかったです。小さな命でも私には大切な命です。T獣医師の「鉄クギのサビを削って食べさせて下さい」という言葉で何か変だと気付くべきでした。最後までコロは輸血や増血剤の治療を一度もして貰えませんでした。コロは毛づやも良く痩せてなどいませんでした。注射で死んだのです。カルテもなく、治療費はいつも暗算で、領収書は全くなくすべて異様な医院でした。残念でした。